

経済産業省 電力・ガス取引監視等委員会
料金審査専門会合への意見（感想）

平成29年11月7日（火）
徳島県消費者協会
名誉会長 齋藤 郁雄

平成25年の総合資源エネルギー調査会電力・ガス事業分科会電気料金審査専門小委員会及び電力・ガス取引監視等委員会の事後評価、更に今回の原価算定期間終了後の事後評価にオブザーバー出席しての意見（感想）

1 この度の電気料金に係る審議等に参加しての感想

今回出席させていただいた各委員会において、電力各社さんの電力会社と言う名称と電力供給という事業は同じでも、その経営形態は各社各様、その中で審議された電気料金値上げと事後評価に係る審議、各社の経営の特徴を捉え公平、適格なる審議、多くの勉強と経験をさせていただきました。

2 電気料金等に係る審議での各社の個別説明について

原子力発電所の事故及び安全性の見直しに係る原子力発電の停止、電力業界各社が直面した重大な局面において、原子力発電なしという状況下でコストアップにどう取り組んでいくか、また取り組んだかを聞かせていただきました。

事業の公共性故の規制と民間企業としての制約故でしょうか、業界ぐるみあるいは業界としての取り組みが何もありませんでした。

しかし、こんな事態でするので業界として共同化・グループ化、相互支援等の取り組み、取り組むべき事業があっても良いのではないのでしょうか。業界ぐるみ、業界事業として、今回のような事態に取り組んでいただければ電気料金の値上げ幅はもっと小さくなったのではないのでしょうか。

具体的にはこの度のような巨大企業で構成している業界でも原子力発電所の休止という重大な局面に直面したとき、業界ぐるみの経営改善のような取り組み、経営改革に取り組まれたとの報告があってもよかったと思いました。

せめて海外からの燃料の共同輸入、共同配船、共同備蓄等の相互支援の取り組みの報告が、この度のような大事故の対策としてはあっても良かったと思いました。

3 今回の認定電気料金とそれから生まれた利益の取り扱い

特別な状況下で認められた電気料金とその結果ですが、原子力発電が再開

されたら当然発電コストは下がりますから顧客還元、電気料金の値下げがあると皆さん思っていたと思います。電気料金の値上げの時、各社各地での値上げ理由・根拠の説明会及び公聴会でも原子力発電が復活すれば、元に戻してくださいとの要望・発言があったように思います。

ただ、原子力発電所の再操業に当たり、安全性をアップするための設備、制度の追加で原子力発電コストもアップしています。どう下げるかは自由化、国際化も考えての各社の戦略的判断だと思いますが、消費者は当然下げていただけたと考えていました。先の特別利益のご説明、株主、従業員、関係企業と沢山あるとは思いますが、一番の顧客を忘れているように思います。

4 安全性の確保

今回の大事故の発生で思ったことは、わが国の原子力発電所の導入のときにも話があったように記憶していますが、原子力発電のような、まだまだ技術革新・改善の余地のある技術を利用するには、事故に備え、今ある安全基準を守れば安全との絶対安全神話でなく、新しい知見・技術が発見されたらすぐ着手、経営状況、コストを考えて躊躇することのないよう、安全性対策に取り組む仕組みづくりが必要ではないでしょうか。

また、そのために莫大な安全対策資金の裏付けとして利益の社内留保、業界ぐるみ資金積立の仕組み作りをこの際作るべきだと思います。

5 外にも利益の使い道

その第一は、原子力発電に必然の放射性廃棄物の処理コスト、さらに最後まで残るのが廃炉コスト、ハイコストに見合い、一定割合の利益を積立金・準備金として各社、業界で蓄え、電気料金の算定にコストとして長期的に算入、それに備える準備もしておくべきでしょうか。

以上